

## ワークショップ4 新型コロナ感染症対応から見てきたこれからの各科臨床実習の理想像を考える

7月30日(金) 10:30~12:00 4チャンネル

WS-04(要旨) 新型コロナ感染症対応から見てきたこれからの各科臨床実習の理想像を考える  
Ideal clinical training, revealed through coping with Covid-19

司会：長谷川 仁志(秋田大学) 石丸 裕康(天理よろづ相談所病院)

臨床実習教育については、長年にわたり本格的診療参加の実現が課題とされて様々な取り組みが検討されてきた。一方、近年、全国的なPost-CC OSCEの実施により、各科が診療参加型臨床実習を本格実施する目標だけでは、その分野で必修の主要症候・病態・医行為に関する症例を経験して卒業時の実践力を十分に達成することができない場合も多いことがわかってきた。すなわち、今後、医師免許の質を保証する理想的な臨床実習を展開するためには、これまでの診療参加を本格化する意識に加えて、限られた各科の臨床実習期間中における効果的な戦略の併用が必要と考えられる。

2020年新型コロナ感染症により十分な対面式の各科臨床実習が不可となり、各科必修の臨床経験を少しでも担保しようと全国で多くの新しい教育の試みが行われ、日本の課題であったデジタル教育が飛躍的に進歩した。これを契機に日本医学教育学会の臨床実習教育部会では、1)現在の各科における診療参加型臨床実習の課題を抽出すること、2)今後の各科における診療参加型臨床実習自体の教育目標を明確化すること、3)診療参加の本格実施に加えて、各科実習中に必須の診療能力を質保証するための効果的な戦略(デジタル教育・シミュレーション教育の実習や評価での併用等)についての議論を深めること、により将来の理想的な臨床実習の方向性を検討する機会を幅広く持つことが必要と考えられた。

このような経緯で、本WSでは、1) 2) 3)の観点から、コロナ禍における臨床実習教育の新しい取り組みを数名の演者のショートレクチャーで共有し、これをヒントにWS形式で各科における臨床実習の課題とこれからの臨床実習教育の理想像について議論を進め、次世代に向けた方向性を探る。(参加者の皆様には、臨床実習で役立つ教材資料が共有されて、その後もいくつかご利用いただける予定となっております。様々な診療分野の臨床実習教育の立場から、お気軽にご参加ください。)

ファシリテーター：長谷川 仁志(秋田大学)  
Hitoshi Hasegawa (Akita University)

三原 弘(富山大学)  
Hiroshi Mihara (University of Toyama)

谷崎 隆太郎(市立伊勢総合病院)  
Ryutaro Tanizaki (Ise Municipal General Hospital)

西屋 克己(関西医科大学)  
Katsumi Nishiya (Kansai Medical University)

網谷 真理恵(鹿児島大学)  
Marie Amitani (Kagoshima University)